

札幌市立もいわ幼稚園

〒005-0018

南区川沿18条2丁目1番13号

【藻岩南小学校との交流及び連携】

本園は隣接する藻岩南小学校と長年交流を重ねている。近年は連携プロジェクトチームを立ち上げ年間計画について話し合い、交流や体験の日程を押さえ、互いの指導計画に位置付けて実施している。

(1) 幼児と児童の交流活動

・年中児と2年生の交流活動（生活科）

①2年生と遊ぼう（6月）

- ・小学校で初めての出会い。踊りや触れ合い遊び。

②幼稚園で遊ぼう（7月）

- ・園庭での砂・水遊び。

③2年生の作品を見せてもらおう（9月）

- ・図工の作品や国語での手作り絵本を見せてもらう。

④2年生が製作したおもちゃで遊ぼう（12月）

- ・2年生に遊び方を教えてもらいながら、一緒にゲームをする。

⑤雪遊びをしよう（2月）

- ・グループで一緒に楽しむ。



♪ロンドン橋…

2年生がつくった橋を潜り、一緒に楽しみました。

・年長児と4年生の交流活動（総合的な学習の時間）

①幼稚園の子を知る（6月）

- ・幼稚園教諭のゲストティーチャー。

②幼稚園で遊ぼう（7月）

- ・ペアになって一緒に遊ぶ。

③小学校で一緒に遊ぼう（8月）

- ・4年生とグループで遊ぶ。

④4年生が企画した遊びを楽しもう（11月）

- ・グループで取り組み親しみを深める。

⑤雪で遊ぼう（2月）

- ・グループで一緒に楽しむ。



折り紙…

難しい折り方は、4年生が優しく教えてくれました。

・ぼっばまつりへの1年生招待 ・観劇会への特別支援学級児童招待 ・発表会児童観覧日への参加など

(2) 教師の合同研修

- ・幼小顔合わせ会 ・幼稚園公開研への小学校教師の参加
- ・1年生の授業参観、意見交換

(3) 小学校施設の利用

- ・体育館 ・図書室 ・グラウンド ・プール ・ウサギ小屋見学
- ・畑の借用 ・水田借用（教頭先生によるゲストティーチャー）
- ・合同避難訓練 ・給食体験（年長児～教頭先生による模擬授業と学校探検）



教員同士も顔見知りになることで、意見や情報交流がしやすくなりました。

【成果】

- 交流活動を積み重ねることで、幼児の児童への親しみや憧れの気持ちが増し、心情面を育んだり、生活経験を広げたりする機会となっている。
- 幼児が小学校の施設を利用することで、より身近に感じられるようになるとともに、学校生活の流れの一端を知る機会となり、小学校生活に安心感と期待感をもつことにつながっている。
- 授業や保育を参観して意見交換をすることで、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点についての理解へとつながり、子どもの発達や学びの連続性について再認識する機会となっている。

【考察】

- これまで継続してきたことで、交流・連携に対し計画的に取り組むことができている。交流活動が型にはまったものではなく、児童・幼児にとって常に有意義なものとなるよう、活動内容を再考し続けることが大切であると考える。

【藤の沢小学校との連携】

今年度、当園の年長児と藤の沢小学校の1年生は年に4回(6月・9月・11月・2月)交流させていただきました。そのうちの3回は、遊びを通しての交流、残り1回は学習発表会の練習を見学させていただきました。

今年度は、例年に比べ卒園児が多かったこともあり、すぐに馴染めるかと思いましたが、最初は久々の再会に照れている様子でした。ただ、身体を動かして遊んでいるうちに、自然と声を掛け合う姿が見られるようになりました。



【初めての交流の様子】

4回目の雪遊びでは、6グループに分かれて、それぞれのグループの1年生が考えてくれた雪遊びを行いました。園に帰ってきてからも、楽しかったと満足そうな様子でした。

【成果】

1年間の交流で、優しく関わってくれたり、毎回遊びを考えてくれる1年生に憧れの気持ちをもてたことで、入学への期待が高まったように思います。



【1年生の考えた遊びで遊んでいる様子】



【考察】

今後は小学校の先生とも話し、幼保小連携推進協議会で話にあがっていた5年生との交流も視野に入れて連携を深めていきたいと考えています。

札幌わかくさ幼稚園

〒005-0034

南区南34条西10丁目3-13

【小学校との連携】

- ・本園は、南区の南小学校と年5回、中央区の山鼻南小学校と年2回、1年生と年長児による交流会を行っています。

＜南小学校との交流内容＞

- ①近隣の公園にて顔合わせ、グループごとに自由遊び
- ②幼稚園にて共同製作
- ③小学校にて発表会の内容交流
- ④小学校にて校内探検、自由遊び
- ⑤小学校にてお店屋さんごっこ、給食活動

＜山鼻南小学校との交流内容＞

- ①小学校にて、1年生企画のコーナー遊び
- ②小学校校庭にてグループで雪遊び

- ・交流会は、7年程前に本園の行事で南小学校の施設をお借りしたことをきっかけに始まり、毎年内容について相談を重ねて、現在の交流が行われています。年度初めに担任同士で顔合わせ、日程調整をしながら1年間の計画を立てています。

- ・交流会の他に月毎発行の行事予定や学校便りのやりとりや、小学校の行事や参観日に見学させていただいています。

【成果】

- ・交流を通して、年長児が小学校に慣れ親しみ、また1年生の優しさに触れ、安心感を得ています。また、就学に期待をもつことができます。
- ・本園には給食活動がなく、特に給食に不安を感じている子ども・保護者が多いが、1度給食を体験することで自信が付き、保護者からも好評です。

【考察】

- ・交流会を通して、入学当初の不安を少しでも取り除き、就学に前向きな気持ちをもつ姿が見られます。年長児にとって、小学校との交流は特に重要であると考えています。
- ・今後も小学校と密に連絡を取りつつ、内容の充実に向けて連携していきたいです。



【公園にて自己紹介を行っている所】



【給食を食べている所】

札幌市立南小学校

〒005-0031

南区南31条西9丁目2番1号

ようちえんのおともだちと

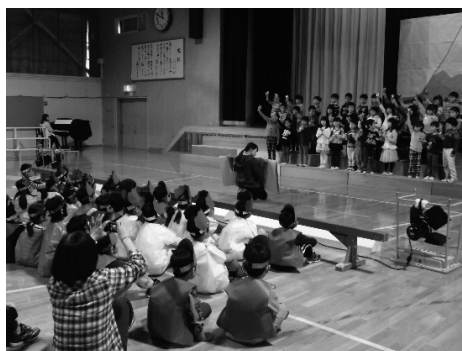
札幌わかくさ幼稚園との交流

わかくさ幼稚園は、校区にある唯一の幼稚園です。年長さんとの交流会は生活科の学習に位置付いており、子どもたちも楽しみにしています。今年度は、もいわ光華保育園が、園外保育の散歩途中で本校に立ち寄り、校内を見学するなど、日常的な交流も行いました。また、来校ばかりだけでなく、初の試みとして、今年度は7月に幼稚園に出向いて交流する場も設けました。

これらの交流の中で一番大切にしていることは、「相手意識」や「思いやり」、「あこがれ」といった心を育み、自分の成長に気付かせることです。

【重点目標】

進んで考え、ともに学び合う心を育む



学習発表会の練習を見学後、わかくさ幼稚園のお友達から歌や踊りのプレゼントもありました。

【1年間の活動】

6月 こうえんであそぼう 7月 いっしょにつくろう 10月 学習発表会にご招待
12月 学校たんけん 2月 おみせやさんごっこ・給食交流



6月 公園で遊ぼう！

「一緒に遊ぼう！」

公園の中で虫捕りをしたり、草で遊んだり、最後は鬼ごっこ。

ともに学び合う心の育み

【交流のよさ】

「自分から声を掛けたよ」 ➡自分から関わる。

※喜んでくれた、分かったよ・ありがとうって言われたよ。

「思いやり」 ➡相手の子が分かるような話し方の工夫

「関わる喜び」 ➡初対面の子と遊ぶのも、「楽しいね！」

※出会いを重ねるたびに、友達が増える、仲が深まる。

心の充実



7月 一緒に作ろう！

「どのように書きたい？」

顔を突き合わせて、話しながら決めよう！

【交流のこれから】

◎交流の時期や内容の工夫

◎教員同士の意思疎通・交流

◎継続を意識した計画

◎幼保とのバランス

学びの充実



12月 学校たんけん

「上手に教えられるかな？」

お互いにドキドキしながら出発！

札幌市立常盤小学校

〒005-0856

南区常盤6条2丁目107番地

【連携先との関係及び、幼稚園職員との連携】

ときわみなみの幼稚園は本校の校区内にあり卒園生も多く入学している。幼稚園までには徒歩で行き来することが出来る。また、災害時の緊急対応のときなども連携を取り合っている。子ども同士の交流として1年生と5年生が合計年7回の交流を行っているが、事前に幼稚園と小学校双方の担任が集まり、計画を立てる場を設定し活動内容や日程について検討している。

【1年生との交流】

基本的には、園児と児童が混ざった小グループを作り、活動している。1回目の顔合わせの会では、自己紹介をしたり、グループごとに遊びの交流をしたりする活動を行った。2回目は、1年生が園児に紙コップを使った風車の作り方を教えながら一緒に作る活動で交流を深めた。3回目は学習発表会を見学してもらった。園児には小学校の学習発表会の様子を感じてもらう場、幼稚園の先生方には、小学校に入学した卒園生の成長した姿を見てもらう場としている。今年度は3年生の劇も観賞した。4回目は、幼稚園に出向いて行った。内容としては幼稚園の敷地を利用し冬の運動会や雪を利用した遊びを行った。



【5年生との交流】

本校では5年生も幼稚園と交流を行っている。新学期に6年生として新1年生をお世話するなど深く関わりをもつ学年である。入学時から顔見知りの6年生がいることで安心して交流を進めることができる。1回目は1年生の交流と同様に顔合わせの会を行った。2回目は3学期に行う。

【その他の取組】

小学校で行う図工の作品展では、園児の作品をお借りし、展示して小学校の全校児童にも観賞してもらった。

【成果】

子ども同士がお互いのことを知ることで、新1年生が入学の時に抱く不安な気持ちを解消する手助けになっている。特に5年生との交流は入学式後のスムーズな人間関係作りに大きな効果が認められる。交流の機会は、小学校側として入学してくる子どもたちの様子を事前に捉えるよい機会となっている。

【考察】

交流することのよさとして1年生の活躍の場が得られることがあげられる。小学校では1年生はお世話される側（受け身）の立場となる事が多いが、自分たちが主体となって活動する機会となるので有効に活用していきたいと考える。

新たな取組としては、スタートカリキュラム作成に向けての教職員同士の交流が考えられる。双方の教師が子どもの育ちについてお互いの考えを交流することが大切である。今後のスタートカリキュラムづくりにこれらの取組をつなげていきたい。

札幌市立澄川小学校

〒005-0005

南区澄川5条4丁目1-1

【澄川保育所との連携】

- ・澄川保育所との連携は、10年を過ぎ、学校行事の一つとして定着している。年長さんと一番歳の近い1年生をお店に招待し、お買い物ごっこを行う。1年生にとっては、小学校に来て初めて自分たちがお兄さんお姉さんとなり、活動するよい機会となる。年長さんにとっては、3か月後に入学する学校の雰囲気味わうことができる良さがある。一方、新入学児童についての引継をする中で、所長さんや主任さんと話す機会が増え、お互いにとって利点がある。
- ・また、総合的な学習でフラワーロードの活動がある。6年生がマリーゴールドのお花を保育所へプレゼントするのである。

～花のプレゼント交換～

6年生が春から手塩にかけて育てたマリーゴールドを、7月に保育所まで持って行きプレゼントする。保育所には3ヶ月間お世話をしてもらい、秋にそのマリーゴールドを押し花やしおり、染め物などにして6年生にプレゼントしてくれる。

花を通して保育所と小学校が結び付き、笑顔溢れる様子がたくさん見られる。

【成果】

- ・毎年、保育所の年長児が楽しみにしている。1年生は、普段は小学校で最年少であるが、この時は先輩となり、優しく教えたり一緒に遊んだりする頼もしい姿が見られる。
- ・花を通して、相手を思いやる気持ちや優しさが育っている。また、地域に愛着をもつきっかけとなっている。

【課題】

- ・子どもの交流だけでなく、教職員の交流を進めていきたい。



【澄川小で行う澄川フェスティバル】

～澄川フェスティバル～

毎年12月に行っている澄川フェスティバル。本校の1年生が体育館でお店を開き、そこで、年長児がいろいろな遊びをする。楽しい小学校生活をイメージしてもらうことや1年生と年長児が仲良くなることをねらっている。毎年、温かい雰囲気の中での交流が行われ、新1年生の入学もスムーズになっている。



【保育所で、6年生が年長児からお返しのプレゼントをもらう】

【いしやま中央幼稚園との連携】

本校では、校区内にある、いしやま中央幼稚園との交流を長年続けている。今年度の交流は、9月と12月の2回、本校の5年生と幼稚園年長組の園児がお互いに訪問する交流を行、11月下旬には、児童が主体となって取り組む児童会活動「ふれあい子どもまつり」に園児を招待し、子どもたちのアイデアを生かした遊びのコーナーでのふれあいを通し交流を深めてきた。

5年生といしやま中央幼稚園の年長組との交流の1回目は、園児が学校を訪問し、5年生児童が、学校内を案内し、体育館で遊びの交流を行った。最初はお互いに緊張した様子も見られたが、だんだんと打ち解け、楽しそうに交流する姿を見ることができた。その後、一緒に給食体験を行った。

2回目の交流は、ふれあいまつりに来校した園児たちをグループに分かれて5年生児童が案内して、各コーナーを回るという交流を行った。5年生のお兄さん、お姉さんと一緒に楽しくコーナーで交流することができた。

3回目の交流は、5年生が幼稚園を訪問し、幼稚園で行っているリズム運動やゲームを行い、5年生からプレゼントを渡した。

【成果】

○小学校として

- ・次年度最高学年となる5年生が、次年度1年生の年長児とかかわることで、最高学年への責任感と相手意識を培うことができた。
- ・幼稚園児にどうすれば喜んでもらえるかということを考え、計画を立てることを通して、見通しをもって考える力や友達と協力して活動しようという意識を高めることができた。

○幼稚園として

- ・小学校に入ってから給食や学習に不安をもっている園児にとって、入学前に学校生活のイメージをもつことができ、学校への安心感や期待感を高めることができた。
- ・小グループに分かれて活動を行ったことと、遊びや給食、リズム運動を通しての交流であったので、コミュニケーションがとりやすく、交流を深めることができた。

【考察】

- 給食体験の活動では、「優しくお世話をしよう」という5年生としてのねらいと、「自分で身の回りのことをできるようになる」という幼稚園としてのねらいのバランスをとっていく必要がある。
- 小学校と幼稚園のスケジュールを調整して、お互いに訪問しやすい時期に訪問できるようにしていく。



札幌市立真駒内公園小学校

〒005-0018

南区真駒内曙町2丁目1-1

【学習発表会の劇の公開】

近隣の保育園・幼稚園に連絡を取り、1年生児童の学習発表会の劇の発表に招待をしている。

開校より、1年生児童の発表会への意欲を高めるため、近隣の保育園・幼稚園を招き、学習発表会の劇を発表している。例年、幼保小連携推進協議会の真駒内ブロックの全ての幼稚園・保育園に1学期から、連絡を取り、行事予定に組み込んでいただいた。例年続けてきた結果、6園の保育園・幼稚園が来校し、250名の園児が1学年の劇を観覧した。



【成果】

保育園・幼稚園の園児に発表することで、1年生はお兄さん・お姉さんとして自信をもって発表することができた。また、引率で来校した保育園・幼稚園の先生からは、卒園した園児の成長した姿が見られて感激したという感想を多数いただいた。来校した園児が、小学校の様子や園より大きい体育館を体感することで、新1年生として入学する期待を高めることができたという話を聞かせていただいた。

【考察】

幼稚園にとっては年長児が新1年生に進学するに当たって、小学校の様子をつかめることができるという点、小学校にとっては、発表する対象があるということで、目標をもって練習を進めることができるという点で、双方に利点があると考えられる。今年度は、多数の園児の来校にかかわらず、入れ替わりがスムーズに行うことができた。45分間の中で園児の移動・児童の発表が行うことができるよう、他学年との調整を行いながら、進めていく必要がある。交流のために新たに練習するのではなく、学習発表会で練習している劇を発表するという点で学校側も、負担無く行うことができている。大がかりな行事にせず、無理ない連携を行っていくことが今後も継続していく上で大切であると考えられる。



【まこまない明星幼稚園との連携】

- ・まこまない明星幼稚園は、本校の校区にあり、毎年多くの園児が本校に入学するため、開校時から年2回の交流を続け、連携を大切にしてきた。
- ・10月に、第1回目の「こうりゅう会」を実施した。内容は、
 - ① 小学校の学習活動と呼びかけで説明し、歌のプレゼントをする。
 - ② 交流ゲームをして、仲良くなる。の2つの交流活動を行った。

1年生児童としては、初めてのお世話活動であるため意欲も高く、話しやすいように声をかけたり、進んで園児を招き入れたりする姿が見られた。

また園児も、発表を見るだけではなく、実際に「鬼あそび」「じゃんけん列車」を行うことで、自然に手をつなぎ、笑顔で応えるなど、安心して遊びに浸る姿が見られた。

- ・2月に、第2回目の「こうりゅう会」を実施した。ここでは園児とより深い関わりができるように、クラス単位で小グループを作って校内を案内し、説明する活動を行った。1年生は、入学したばかりの4月に2年生に学校案内をしてもらった経験を活かしたり、1年生が関わる特別教室に絞って説明をしたりしたことで、どんな部屋なのか、どんな時に使うかなど、具体的で分かりやすい説明の工夫ができた。この一年を振り返る良い機会にもなり、目前に迫った2年生進級への期待や意欲付けにつながった。

【成果】

- ・幼稚園と連携することで、入学する前の園児の様子を見ることができ、入学してから配慮することなども交流することができた。
- ・児童にとっては、お世話される側からお世話する側に立場が変わることで、園児を思いやり、積極的に声掛けをする姿が見られた。
- ・園児にとっては、学校の様子を知り、1年生と触れ合うことで小学校生活への不安を軽減し、「小1プロブレム」も小さくなると思う。

【考察】

- ・毎年継続することによって、年間カリキュラムに位置付け、活動の見通しをもって交流の活動ができている。
- ・幼稚園と小学校の先生間で話をする場が多くなり、情報交換がスムーズに行えるようになった。
- ・学校と幼稚園の規模の違いにやや課題がある。児童数に比べて園児の数が少ないため、園児1人に対し、児童4人が関わる形になる。また、児童と園児を合わせるとかなりの人数になるため、他の学年が校内にいない日を選んで活動するようにしている。



【第1回交流会での交流ゲームの様子】